

## 平成22年度第2回尾張旭市要保護児童対策地域連携会議代表者会議会議録

- 1 開催日時  
平成23年2月16日（水）  
開会 午後 3時00分  
閉会 午後 5時00分
- 2 開催場所  
尾張旭市役所 南庁舎 講堂1
- 3 出席委員  
大野香代子、平位 弘子（代理）、安達清悟、安藤郁子、山口英明、  
近藤信綱、加藤千鶴代、齋藤悦子、三輪隆彦、齋場和志、深谷秀次、  
水野秀樹、吉田和仁、伊藤成人 14名
- 4 欠席委員  
加藤愛子 1名
- 5 傍聴者  
1名
- 6 出席した事務局職員等  
中央児童・障害者相談センター児童福祉司 豊岡亜希子、同 若尾あおい  
子育て支援室長 森喜久子  
子育て支援室子育て支援係長 朝見孝二、子育て支援室 塩田駒子  
家庭児童相談室相談員 和田智子 6名
- 7 議題等
  - (1) 尾張旭市における児童虐待の現状について
  - (2) 県中央児童・障害者相談センターの状況について
  - (3) 児童虐待対応の事例検討について（非公開）
- 8 配布資料  
資料1：尾張旭市における児童虐待の現状  
資料2：県中央児童・障害者相談センターの状況  
資料3：児童虐待対応事例

参考資料 1 : 要保護児童対策地域連携会議の会議の公開に関する基本方針  
/ 付属機関の会議の公開に関する基準

9 会議の要旨

<p>子育て支援室長</p>	<p>本日の議題に入りますまでの間、進行役を務めさせていただきます、健康福祉部子育て支援室長の森でございます。よろしくお願いいたします。開会に先立ちまして会議の公開及び傍聴のことですが、平成18年度当会議立ち上げの際承認をいただきました当会議の基本方針に基づいて原則公開、個人情報の含まれる事例検討につきましては非公開とさせていただきます。</p> <p>&lt;傍聴者数報告&gt; &lt;欠席者報告&gt;</p> <p>当会議では会議録を作成しまして、座長に内容等の確認を取った後、非公開部分を除きまして市のホームページ等で公開をしておりますのでよろしくお願い致します。</p> <p>それでは、ただ今から平成22年度第2回尾張旭市要保護児童対策地域連携会議代表者会議を開会させていただきます。</p> <p>会議の開会にあたりまして、水野健康福祉部長兼福祉事務所長がごあいさつを申し上げます。</p>
<p>健康福祉部長</p>	<p>&lt;あいさつ&gt;</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>&lt;配布資料の確認&gt;</p> <p>本会議の座長につきましては、尾張旭市要保護対策地域連携会議運営要綱第5条第2項の規定によりまして、尾張旭市福祉事務所長が行うことになっておりますので、以後の進行は座長にお願いしたいと存じます。よろしくお願い致します。</p>
<p>座長</p>	<p>それでは規定により座長を務めさせていただきます。皆様のご意見、ご提案をいただきまして会議を円滑に進めさせていただきたいのでご協力をお願い致します。それでは早速議事に入ります。議題(1)「尾張旭市における児童虐待の現状について」を事務局から説明をお願いします。</p>
<p>子育て支援室長</p>	<p>◆ 資料1「尾張旭市における児童虐待の現状について」より現状について&lt;説明&gt;</p>

座長	ただ今の報告につきまして何かご質問またはご意見がありましたらご発言をお願いします。
F 構成員	大変一生懸命やっていたらしく感じました。いちばんわかりにくいネグレクトの数が多いようですが、これはきめ細かく動いているから件数が多いと思うのですが、他に何か理由がありますか。 また、例としては少ないかもしれませんが、虐待を繰り返す家庭があると聞いています。どのように対応されているのでしょうか。
座長	ネグレクトの数の多さと虐待の再発生についてのご意見でしたがいかがでしょうか。
子育て支援室長	ネグレクトの家庭については、定期的に家庭訪問し、子どもへの関わり方や室内の環境について具体的に示す支援をしています。
座長	当市の虐待の中でネグレクトの占める割合は県レベルから見ると高いですか。
中央児童・障害者相談センター長	県内の10の児相が対応するケースでは身体的虐待が多いのですが、市町ではネグレクトが多いようです。これはネグレクトの場合、地域で密にフォローする必要があるので市町での対応が主になるからだと思います。
子育て支援室長	ネグレクトの対応についてですが、母親が精神疾患などで養育が困難な場合は、家庭訪問で子どもに身辺自立の方法を教えることもあります。
O 構成員	ネグレクト傾向の保育園児の場合、母親が知的または精神的な要因で育児能力が低いようです。中には自分の子でありながら「見たくない」という残念な例もあります。
座長	他に何かご意見等はございませんか？ないようですので、議題(2)に移ります。「県中央児童・障害者相談センターの状況について」センター長よりご説明をお願いします。
中央児童・障害者相談センター長	◆ 資料2「県中央児童・障害者相談センターの状況」に基づいて <説明>
座長	ありがとうございました。国と愛知県の状況についてセンター長よりご説明いただきました。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。
F 構成員	死亡事例の67人が多いのか少ないのかはわかりません。例外中の例外で、それと時代背景を結び付けて考えるのは難しいと思いますが、虐待に至る前の段階でいかに支援するかが大事なのでは

	う。その日のうちに死亡してしまうのは、出産を誰にも知られたくないというような社会から隔絶された状態でおきていると思われ ます。まわりのあたたかい目が必要ではなかったか。それ以前にな ぜ妊娠してしまったのか。モラルの問題だが、それだけではなく地 域のあたたかい目が必要だと思います。子育てをしている家庭だけ でなく地域を育てることも行政にお願いしたいと考えます。
子育て支援室長	子育て支援フォーラムで講演していただいた明橋先生は、預けら れずに子連れで参加されたお母さんの、それでも聞きたいという姿 勢を評価されていました。子どもがぐずった時もまわりがあたたか く見守る、子育て支援フォーラムはそういう雰囲気の中で行われる ものだと言われました。子どもが小さい時期は尾張旭全体でやさし く見守りができる雰囲気になればと思います。
健康福祉部長	このフォーラム終了後、先生とお話しする機会がありました。そ こで講演中に走り回る子がいたことを主催者側としておわびした ところ、子育てフォーラムで子どもが走ってなにがいけないのかと 言われました。
中央児童・障害者 相談センター長	おっしゃる通り「地域で子育て」は基本であり大事なことです がどうしても実現できるのが難しいところです。虐待家庭の多くは経 済的な不安定さも抱えています。特に若い親の家庭だけでなく、普 通の家庭でも悩みはあります。近所づきあいのなかで「がんばって るね」という声かけがあればと思います。
座長	他にいかかでしょうか？
O 構成員	個人的なことです。孫が生まれ息子一家はアパートから離れに 移ってきました。近くで見ている「今の若い親は基本をしらない」 と実感しました。それでいろいろ不安になるようで「いろいろある よ」といつも言葉をかけています。地域も大事ですが、まず家庭か ら始まります。地域力の不足がテーマの講演を聞いた時、田舎なら ともかく都会で地域力に期待するのは現実離れしていると思いま した。行政として何とかフォローしたいところですが、大きなテー マ、日本社会の永遠のテーマかもしれません。
F 構成員	子どもから見て知らない人は不審者という動きがありますが、ま わりの人は自分をおびえた目でみることもをかわいと思えない のではないかと。これはどこかで変えなくてはいけないので、行政に フォローをお願いしたい。あいさつ運動で校門やPTAの人にあい さつしましょうではなく、近所の人にあいさつしましょうと伝えたい。 にこにこあいさつする子どもの笑顔に誘われてまわりの人もこ

	<p>どもを好きになるという仕組みがあるので、それを利用してはどうでしょうか。</p>
D構成員	<p>生まれてすぐ亡くなった事例は、たぶん望まない妊娠だったのでしょう。小児科医は、日頃の関わりの中で心配なお母さんのフォローをしたり、場合によっては通報もします。産科の医師とも連携すれば、リスクを抱えた家庭を早めに保健師につなぐなどのフォローができると思います。今回は死亡事例が報告されましたが、死亡の場合そこで終わります。多くの被虐待児は愛情を知らずに大人になり、虐待の連鎖が起こります。それを防ぐためには養育能力を見極めて支援することが必要です。まわりの人の観察力が求められます。</p>
B構成員	<p>今の提案についてです。3年前から年に1回ですが、産科の医療機関の医師または職員に集まってもらい、情報をいただいています。以前は、産後気になる親について医療機関から連絡がありましたが、出産前から関わるができるように特定妊婦の連絡もお願いしています。また、母子手帳交付時の面接の問診票についても、望まない妊娠を把握できるよう見直しています。今年中には新しい問診票ができる予定です。</p>
中央児童・障害者相談センター長	<p>今議論されている点は、正に児童虐待対策で充実がはかられていなかった部分です。以前から虐待の連鎖、悪循環は言われてきました。それを防ぐには早期発見、早期対応と予防も大事です。いかに早く発見するかが第一。発見後、重症の場合は保護をします。愛知県では保護するケースは3割、国は2割です。その中で施設入所するケースは愛知県では2割です。その後はまず家庭復帰を考えるが、帰せるかどうかの見極めをしないといけない。家庭復帰支援から親子再統合まで児相がやりたいが、もともと難しい家庭なのでかなり大変。今あるケースの保護が優先だが、視点としては家庭復帰を目指しています。</p>
座長	<p>特定妊婦の早期発見について、健康課から何かありますでしょうか。</p>
健康課長	<p>先ほどお話がありましたように、母子手帳交付時に把握できるようにアンケートのような物を作成中です。余談ですが、児相の資料で年齢別出生割合のトップが30～34歳とありました。この年代の妊婦は、知識のある分保健師の言うことを聞かない傾向にあります。支援を受け入れない、メンタル疾患の方が多いと言う特徴も感じています。今後も保健センターでできる早期発見に努めてまいり</p>

	ます。
〇構成員	昨年、心配な家庭について、3連休に入るということで警察にも協力をお願いしたことがありました。いざという時の警察の介入について法整備はあるのでしょうか。
C構成員	警察は緊急性のある事案について対応します。
座長	他によろしいでしょうか。それでは次の議題は非公開となりますので、その他で何かありましたらお願いします。事務局からはいかがでしょうか。
子育て支援室長	来年度、第1回目の要保護児童対策地域連携会議代表者会議は7月頃の開催を予定しております。日程が決まり次第、連絡させていただきます。
座長	それでは、議題(3)「児童虐待対応の事例検討について」に入ります。
	児童虐待対応事例の説明及び意見交換《非公開》
座長	長時間にわたりましてありがとうございました。本日の議題のすべてを終了いたしました。ここで座長の任を解かせていただきます。
子育て支援室長	それでは平成22年度第2回尾張旭市要保護児童対策地域連携会議代表者会議を閉会致します。ありがとうございました。